

西館

地域密着型サービス自己評価票（網掛け部分は外部評価も行う調査項目） ※取り組んでいきたい項目には「1」が入っています。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
I	理念に基づく運営	1～5 (自己No.1～24・外部No.1～14)		自己評価24項目・外部評価14項目	5		
I	理念に基づく運営	1 理念の共有(自己No.1～3・外部No.1～2)		自己評価3項目・外部評価2項目	1		
		1	外部評価1	○ <b>地域密着型サービスとしての理念【外部評価】</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者と家族の視点に立ち、笑顔をキーワードにその人らしい暮らしと開かれたグループホームを目指した理念を全スタッフで話し合いつくりあげている。	0	
		2	外部評価2	○ <b>理念の共有と日々の取り組み【外部評価】</b> 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年理念に基づきユニット目標と個人目標を立て、日々のケアに取り組んでいる。	0	
	3		○ <b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	定期的な家族会の中でご家族に利用者の「笑顔」いっぱいの写真や、スライドショーで紹介し日々の暮らしの様子を伝えている。家族会や家族への便りを通じて、職員の目標、壱番館目標などを伝えている。	1	地域への理念の理解は地域向けの便りを通して伝えている。	
	2 地域との支え合い(自己No.4～6・外部No.3)		自己評価3項目・外部評価1項目	0			
	2	地域との支え合い	4	外部評価3	○ <b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	買い物や外食は近隣のお店をよく利用している。隣のいちご畑からケーキ用にいちごを頂いたり、散歩やごみ拾いに行った時などは近所の方々に積極的に挨拶を交わしている。知人の方に日頃から気軽に立ち寄り頂いている。	0
		5	外部評価3	○ <b>地域とのつきあい【外部評価・重点】</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事の際は地域の方々に参加・呼びかけを行っており、夏祭りでは花火を手伝って下さったり、餅つき大会ではつきたての餅を入居者と一緒にな所に配ったりしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営	2 支 地 域 と の 合 い	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	周囲のごみ拾いを入居者の方と一緒にやっている。実習生の受け入れを行ったり、地域の方がハーモニカ・茶道などの趣味を披露して頂く場としても活用して頂いている。	0	
		3	理念を実践するための制度の理解と活用(自己No.7~11・外部No.4~7)	自己評価5項目・外部評価4項目	2	
	3 理 念 を 実 践 す る た め の 制 度 の 理 解 と 活 用	7 外 部 評 価 4	○評価の意義の理解と活用【外部評価・重点】 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員間で評価の意義を理解しながら、全職員で取り組んでいる。改善点について皆で話し合い、評価を活かしながら取り組んでいる。	0	
		8 外 部 評 価 5	○運営推進会議を活かした取り組み【外部評価・重点】 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事、日頃の様子、事故報告等について報告し、運営推進会議の中で意見やアイデアなどを出して頂き、利用者がよりよく過ごして頂けるよう工夫している。地域の行事の案内や、地域の様子を伝えてもらいグループホームが地域で担える役割についても模索してサービスの向上に努めている。	0	
		9 外 部 評 価 6	○市町村との連携【外部評価・重点】 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と地域の事業所のサービス向上に向けて、研修会への参加、研修会の講師、事例報告などを行い取り組んでいる。	1	市と他事業所との連携にもっと取り組んでいきたい。
		10 外 部 評 価 7	○権利擁護に関する制度の理解と活用【外部評価・追加】 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者の方が実際に成年後見制度を利用されており、弁護士と連携支援している。玄関には相談窓口のパンフレットを置いている。職員は資料を読むなどして学んでいる。	0	
		11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会をもち、虐待が見過ごされることがないように意識づけを行っている。	1	日頃のケアが無意識に虐待に繋がっていないかを、スタッフ間で声をかけ合い日頃から振り返る機会を作っていきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで きたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
	4		理念を実践するための体制(自己No.12~18・外部No.8~10)	自己評価7項目・外部評価3項目	1	
I 理念に基づく運営	4 理念を 実践 する ため の 体制	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には料金説明、サービスの内容について説明を行い、疑問点については十分な説明を行っている。契約時以外でも契約内容に関しての説明ができる様、日頃より話しやすいようにしている。	0	
		13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションを密に図り、表情・行動・言動の変化に注意しながら、気持ちを汲み取り出来る限り応えることが出来るよう努めている。	0	
		14 外部 評価 8	○家族等への報告【外部評価・重点】 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時には暮らしぶりやエピソードなど近況報告を行っており、定期的に写真を載せたお手紙を個別に郵送しており、大変喜んで頂いている。体調不良時やアクシデントが起きてしまった際はその都度早めに電話で伝えている。	0	
		15 外部 評価 9	○運営に関する家族等意見の反映【外部評価・重点】 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族が来訪されたら、ゆとりをもって挨拶し、意見・不満などを言いやすい雰囲気作りに努めている。	0	
		16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、申し送りの時間に出来る限り職員の意見、提案を聞くようにしている。ユニットリーダーを通じて現場職員の意見をきくようにしている。必要な場合は個別に時間を取り話を聞くこともある。	1	個別に話を聞く機会を定期的に行なえるようにして行きたい。
		17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況が変化したり、人員不足が生じた場合は管理者が通常のシフトに行っていないので応援体制をとることが出来る。行事等で必要な場合は柔軟な配置調整を行なっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで きたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営	4 る 理 念 た め の 実 体 践 制 す	18 外 部 評 価 10	○ <b>職員の異動等による影響への配慮【外部評価】</b> 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職時には利用者のダメージを防ぐ為職員の紹介や引継ぎの期間を設けている。	0	
	5 人材の育成と支援(自己No.19~24・外部No.11~14)			自己評価6項目・外部評価4項目	1	
	5 人 材 の 育 成 と 支 援	19 外 部 評 価 11	○ <b>人権の尊重【外部評価・追加】</b> 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の年齢や性別を採用基準として扱ってはいない。採用した職員の一人一人の、特技、能力を活かして力を発揮できるように役割を持ってもらっている。	0	
		20 外 部 評 価 12	○ <b>人権教育・啓発活動【外部評価・追加】</b> 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎朝の申し送りの時に職員が人としての向上をめざしていけるように「倫理」の本を読み1日始めている。	0	
		21 外 部 評 価 13	○ <b>職員を育てる取り組み【外部評価】</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	公的な機関の研修から、民間の研修機関の案内を職員に広く情報を提供し、学ぶ機会を提供している。必要な研修においては、年間の計画を立て出来る限り参加できるよう配慮している。研修後の発表を行なっている。	1	
		22 外 部 評 価 14	○ <b>同業者との交流を通じた向上【外部評価】</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業者協議会の研修会への参加や、事例発表などを行い他事業者との交流を行なっている。	0	
		23	○ <b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が新しく入職してきた時はそのユニットごとで歓迎親睦会を開いている、ストレスの軽減を行なっている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいきたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
	5 と人材 支援の 育成	24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が資格取得や研修に行く事に協力的であり向上心に対して評価を行っている。(資格取得者の表彰や資格取得一時金など)	0	
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援 1～2 (自己No.25～34・外部No.15～16)				自己評価10項目・外部評価2項目	0	
II 安心と信頼 に向けた関係作りと支援	1 相談から 利用に至る までの関係 づくりと その対応	1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 (自己No.25～28・外部No.15)		自己評価4項目・外部評価1項目	0	
		25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時にご本人の状況を出来るだけ詳しく聞き、どんなサービスが一番必要であるかを見極め、柔軟に対応している。	0	
		26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の経済状況や、支援体制、求めているものを的確に把握し提示できるようにしている。	0	
		27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談に見えた時点で本人が置かれている状況を見極め、本当に入居が必要なのか、ご家族の状況によってはまだ在宅でのサービスを活用することで対応できるのか、色々な提案をしながら入居の必要性を検討している。	0	
		28 外部 評価 15	○馴染みながらのサービス利用【外部評価】 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居するのではなく、入居前にショートステイを利用して頂いたり、何度か訪問して頂いたり、宿泊体験も利用して頂いている。	0	
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 (自己評価No.29～34・外部評価No.16)				自己評価6項目・外部評価1項目	0	
係り2 継続 これ までの 関係 づく り の 支 援	29 外部 評価 16	○本人と共に過ごし支えあう関係【外部評価】 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や趣味(編み物・習字・カラオケ・歌舞伎・園芸)など入居者が得意とされる事を一緒に楽しみながら、教えて頂く機会を作っている。生活を共にしながら、喜怒哀楽を共感できるように努めている。	0		



大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係作りと支援	新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	30	<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が職員に介護を委ねきりになったり、職員が抱え込んでしまわないよう、来訪時や家族会の時に現状を説明し、無理のない範囲での支援を依頼している。(買い物や外出など)	0	
		31	<b>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	年1回家族会を開き、一緒に食事を楽しんだり、日頃の写真を見て頂いたりして、本人と家族のより良い関係作りに努めている。	0	
		32	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医を入居後も引き続き受診することで馴染みの関係を続けたり、昔からの友人と継続的な交流が出来るように支援している。	0	
		33	<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関わり合いがより多く持てるよう、職員がきっかけを作ったり、入居者一人ひとりの個性が上手く活かせるよう配慮している。	0	
		34	<b>○関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居して他施設へ入居された方の所へは仲の良かった入居者と一緒に訪問したり、こちらにも遊びに来て頂いている。	0	
Ⅲ	その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1~4 (自己No.35~51・外部No.17~22)			自己評価17項目・外部評価6項目	1	
	1	一人ひとりの把握(自己No.35~37・外部No.17)		自己評価3項目・外部評価1項目	0	
	1	35 外部評価17	<b>○思いや意向の把握【外部評価】</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションを大切にし、一人ひとり思いを聞いたり、意思疎通が困難な方には言葉や表情などから思いを汲みとれるよう努めており家族からも情報を得ている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	1 一人ひとりの把握	36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族来訪時に生活歴や馴染みのものを聞いたり、入居者本人・関係者・知人に聞いたりしてこれまでの暮らしの把握に努めている。	0	
		37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムやその変化を把握するよう関わりを大切に、行動や小さな動作から思いを感じ取りながら、記録をきちんと行い職員間で共有できるように努めている。	0	
	2	本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し (自己No.38~40・外部No.18~19)	自己評価3項目・外部評価2項目	0		
	2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	38 外部評価18	○チームでつくる利用者本位の介護計画【外部評価】 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、入居者の生活の質とADLを高めるようカンファレンスや意見交換を行いながら、それらを反映させた介護計画を作成している。	0	
		39 外部評価19	○現状に即した介護計画の見直し【外部評価】 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前にはモニタリングを行い、職員全員と家族や本人の要望を聞き、状態が大きく変化した際にはその都度見直しを行っている。	0	
		40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に食事・水分量・排泄及び日々の暮らしの様子、本人の言葉などをできるだけ細かに記入して全ての職員が把握しやすいようにしており、業務開始前には記録に目を通してからケアを行うようにしている。	0	
	3	多機能を活かした柔軟な支援(自己No.41・外部No.20)	自己評価1項目・外部評価1項目	0		
	3 多機能を活かした柔軟な支援	41 外部評価20	○事業所の多機能性を活かした支援【外部評価】 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居時はいきなり入居するのではなく、ショートステイを利用したり、宿泊体験を行ったりして、徐々に慣れて頂くようにしている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで きたい 項目	取り組んで いきたい 内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 (自己No.42~51・外部No.21~22)	自己評価10項目・外部評価2項目	1	
			42 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を通して、民生委員や自治会長と意見交換を行い利用者が安心して地域での暮らしを続けられるよう、協力を得ている。	0	
			43 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望に応じて訪問理美容サービスを利用したり、ヤクルト訪問販売も利用している。	1	他にも利用できるサービス（訪問パン販売など）がないか検討していく。
			44 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加する包括支援センターの職員等と情報交換しながら、地域の住民の方が包括支援センターを活用したり、包括支援センターの情報を基にグループホームの役割などを一緒に考えていっている。	0	
			45 外部評価21 ○かかりつけ医の受診支援【外部評価】 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらい複数の医療機関と連携を密にしている。	0	
			46 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師とも連携を結んでいるので、相談し助言を受け、治療を行っている。	0	
			47 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関より、月2回以上の定期訪問看護、日常的にも利用者の健康管理についての相談、夜間の電話での相談等を行なっている。	0	



大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	4	48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には本人の必要な情報を医療機関に提供し、入院中は医療関係者と情報交換しながら状態把握に努めている。入院中は早く元気になってもらえるよう細めに面会に行くようにしており、長期になる場合は皆で千羽鶴を折って届けたりもしている。	0	
		49 外部 評価 22	○重度化や終末期に向けた方針の共有【外部評価】 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作成し、入居時に説明を行っている。又食事が入らなくなってきたり、状況的に重度化されてきたら、医師より現状の説明及び、家族の意向を確認し今後の方針を定め、支援に繋がれるようにしている。終末期においては、家族の気持ち、本人の思いを尊重し「同意書」を交わして方針の共有に努めている。	0	
		50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「看取り同意書」に基いて、協力医療機関などと、連携を取り、安心して最期を迎えられ、ご家族、ご本人を支えられるように職員が一体となり、カンファレンス、担当者会議を通して情報を共有しその状態において必要なことを何度も確認しながら支援している。	0	
		51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設からの入居については家族・本人と話し合い、お試しの泊まり、昼間の訪問の受け入れなどで、ダメージを最小限に抑えるようにした。併設のデイサービスの利用、ショートステイの利用なども行えるようにしている。	0	
IV	その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1～2 (自己No.52～89・外部No.23～33)			自己評価38項目・外部評価11項目	11	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1	その人らしい暮らしの支援 (1)～(5) (自己 52～81・外部 23～30)		自己評価30項目・外部評価9項目	7	
		(1)	一人ひとり尊重(自己No.52～54・外部No.23～24)	自己評価3項目・外部評価2項目	0	
		52 外部 評価 23	○プライバシーの確保の徹底【外部評価】 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりにその時その時に合った言葉かけや対応を心掛けている。記録物の保管については個人情報の重要性を理解し、保管場所や取扱いに注意している。	0	
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分で選んだり決めたりできること(着替えや食べ物)はその都度本人の意思を確認したり、表情を細かく読み取りながらその人らしく暮らしていただけるよう支援している。	0			

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	54 外部評価 24	○日々のその人らしい暮らし【外部評価】 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者への対応を最優先し、出来る限り入居者一人ひとりのその時その時の思いに添えるよう対応を心掛けている。(外出や買い物など)	0	
		(2)	その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 (自己No.55~60・外部No.25~26)	自己評価6項目・外部評価2項目	1	
		55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お肌の手入れを習慣づけてもらったり、お化粧品や自分に合った服を選んで着るなどしてその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。理容・美容については毎月1回のビューティーヘルパー(訪問理美容)を利用し希望に添ったカットをして頂いたり、本人の希望される近隣の美容室に出かけたりもしている。	0	
		56 外部評価 25	○食事を楽しむことのできる支援【外部評価】 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや味見を一緒に行っており、盛り付けや片付けも無理のない程度で一緒に行っている。行事の時はお弁当箱に詰めたり、気候の良い日は中庭で食事を楽しんだりしている。メニューによって食器を変えたり、身体レベルに応じた食べやすい食器やスプーンなどを使用しながら入居者と職員が同じテーブルを囲んで談笑しながら食事を	0	
		57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者一人ひとりの好みを把握し、嫌いなメニューについては別のメニューにて対応している。おやつ等も入居者の好まれる昔ながらのごろしやふなやきなどのシンプルな手作りおやつを作っている。飲み物は種類やホット・アイスの希望を聞くように心がけている。	0	
		58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の様子をみながらそれぞれに合った声かけ・誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。一人ひとりの排泄パターンを記録し、早めの声かけを心がけている。	1	排泄パターンがより把握できるようチェック表を作成し使用している。
		59 外部評価 26	○入浴を楽しむことができる支援【外部評価】 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日を決めてはいるが、本人の希望や体調により、入浴日以外でもいつでも入浴や清拭ができるようにしている。入居者が入浴したいと思えるような声かけ・誘導の仕方を工夫し、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。	0	

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の気分や体調により、日中自室やソファ・畳など好きな場所で休んでもらっている。なるべく生活リズムが整うよう日中の生活を促している。	0	
		(3)	その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 (自己No.61~66・外部No.27~28)	自己評価6項目・外部評価2項目	2	
		61 外部評価 27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援【外部評価】 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の得意なことが発揮できるようお願いできるような仕事をして頂き、感謝の言葉をかけるようにしている。趣味のカラオケや習字・観劇・手芸など、楽しみごとを通して気晴らしの支援をしている。又、昔得意とされていたグランドゴルフなど、スタッフが教えてもらうことにより張り合いを感じて頂いている。	0	
		62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所にて保管しているが、本人が必要とされる時はその都度必要な額を手元を持って頂くようにしている。買い物に行った際はなるべく本人に支払ってもらうよう支援している。	0	
		63 外部評価 28	○日常的な外出支援【外部評価】 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日・その時の希望により、戸外へ出かけた時は出来る限りその都度付き添えるよう支援している。又、こちらからもお誘いの声をかけ、気分転換に散歩やドライブ・外食に出かけたりしている。	0	
		64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じ入居者の意見を聞きながら年間行事をたて、季節の花見や買い物・初詣などに出かけている。家族とともに宗教活動や墓参り・馴染みの場所へ出かけられることもある。	0	
		65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話することは少ないが、友人・知人から電話がかかってきて本人と話されることがある。手紙の返事を書かれ、スタッフにポストに投函をお願いされるので支援している。	1	家族と連携を図り、電話ができるように支援していきたい。

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	来訪された時は気持ちの良い挨拶を心掛け、近況を報告したりフロアや居室など好きな場所で入居者と一緒にゆっくりとお茶を飲んで過ごして頂いている。又、知人や友人の方で会話がスムーズに行っていないような時は様子を見ながらスタッフが間に入ったりもしている。	1	家族がスタッフに話しかけ易いよう、常に笑顔を手がけ、忙しく慌ただしそうな雰囲気を出さないよう心がけている。	
		(4) 安心と安全を支える支援(自己No.67~74・外部No.29~30)			自己評価8項目・外部評価2項目	2	
		67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日頃から話し合いを行い、身体拘束に繋がらないケアを色々と工夫しながら取り組んでいる。危険を伴うやむを得ないことについては家族に相談し了承を得ている。	1	身体拘束についてさらに理解が深められるよう勉強会を行っていきたい。	
		68	○鍵をかけないケアの実践【外部評価】 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員で理解してはいるが、入居者の不穏状態により、やむを得ず死角になる出入り口に日中鍵をかけていることがある。外に出られようとした時は、本人の思いや行先をよく聞くようにしており、不穏にならないようなケアに取り組んでいる。	1	出来る限り鍵をかけずに安心して快適な暮らしができるよう取り組んでいる。	
		69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず一人は職員がフロアにいるようにし、他職員と連携を図りながら入居者の様子を見守り、把握するようにしている。夜間は数時間毎に入居者の様子を確認しており、全体を把握しやすい所に待機し、必要時にはセンサーを利用するなどしてすぐに対応できるようにしている。	0		
		70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりの状態に応じ、ハサミなどは職員で管理して必要時には見守りを行いながら使用してもらったり、薬や洗剤など、危険が予測されるものについては状況に応じて目の届かない所に保管するようにしている。	0		
		71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日頃から入居者一人ひとりの状況把握に努め、見守り・確認・環境整備などを徹底しながら事故防止に努めている。もし事故が起きた場合は書類・口頭で医師と家族に報告を行い、安全対策委員会でも検討し、全職員で情報を共有しながら再発防止に努めている。	0		



大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命士による講習会に全職員が参加したことがあり、応急手当について学ぶ機会をもっている。夜間急変時に対応についてはマニュアルを作成し、対応している。又、日頃から看護師より緊急時の対応などについて学んでいる。	0	
		73 外部 評価 30	○災害対策【外部評価】 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防署の協力を得て消火避難訓練を実施している。又、年に4回避難誘導のみと火災通報のみの小訓練も実施している。訓練の際には地域の方へも協力を呼びかけている。災害時のマニュアルも作成している。	0	
		74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	離設や誤嚥・転倒など、一人ひとりに起こり得るリスクについて日頃から家族に伝えるようにしており、事故防止に対する対応策は家族の方の意見も取り入れつつ取り組んでいる。	0	
		(5)	その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 (自己No.75~81・外部No.31)	自己評価7項目・外部評価1項目	2	
		75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの食欲や顔色など、変化がある時はすぐに気付くよう日頃からよく観察している。毎日バイタルチェックを行い、気になる時は申し送りを行いながら様子観察を行っている。状態が重い場合は速やかに管理者に報告し、併設病院と連絡を取り対応している。	0	
		76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを作成し、お薬手帳を整理し、全職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は誤薬が起きないように日時・名前をその都度きちんと確認してから服用して頂くよう徹底している。(2重チェック)又、臨時薬や新しい薬が処方された場合は、特に注意し様子観察を行うようにしている。	1	精神科の薬が変更になった時は、精神面の状況を別紙に記録し、より把握しやすいようにしている。
		77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄状況を記録し把握に努めている。日頃から水分(状況に応じて牛乳や飲むヨーグルト)をまめに補給してもらい、出来る限り身体を動かすよう働きかけたり、腹部マッサージを行っている。	0	



大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいき たい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援	78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後行って頂くよう声かけ・支援を行っており、個人に合った歯ブラシ（豚毛など）を使用してもらっている。拒否される方に対しては、口腔ケアの必要性を理解してもらえるよう声かけを工夫している。年に1回訪問歯科による歯科検診を全入居者受けており、アドバイスを受けている。義歯の方は義歯洗浄剤を使用している。	1	中には口腔ケアが不十分な方がおられるので、より意識して声かけ・支援に取り組んでいきたい。	
		79	○栄養摂取や水分確保の支援【外部評価】 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給はおおよその時間を決め、本人が好まれる飲み物を提供するなどして水分補給を促しており、お茶を好まれない方には、お茶ゼリーにて提供している。食事は食べやすい形態で提供し、摂取量が減ってきた場合は食事の形態を工夫したり、本人の好まれるものを提供したり、補助食品を提供するなどして対応している。	0		
		80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	勉強会や感染対策委員会に参加し、感染症について学んでいる。日頃から手洗い・手指消毒はきちんと行うようにし、インフルエンザ予防接種は事情がない限り入居者・職員全員受けるようにしている。体調不良時だけでなく感染症の流行時は、館外に出る時は感染予防の為にマスクを着用するようにしている。	0		
		81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器や調理器具は乾燥機を使用しており、まな板や布巾は毎晩漂白・消毒するなどして、衛生面に気を付けている。又、残飯は毎食毎に処分するようにしている。冷蔵・冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている。	0		
	2	その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)~(2) (自己 82~89・外部 32~33)			自己評価8項目・外部評価2項目	4	
	2	(1) 居心地のよい環境づくり(自己No.82~86・外部No.32~33)			自己評価5項目・外部評価2項目	2	
	2 生活環境づくり その人らしい暮らしを支える	82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	地域の人にグループホームと分かるよう、門扉に手作りの看板を作成して掲げている。玄関周りには生花や観葉植物などを飾り、温かい雰囲気作りをしている。	1	門扉にプランターの花を飾るなどしてより温かく親しみやすい雰囲気作りに努めていきたい。	
		83	○居心地のよい共用空間づくり【外部評価】 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす居間は天窗よりやわらかな日差しが差し込み、居間から見える中庭には季節を感じる花や野菜を植えている。食事をする各テーブルには季節の草花を飾るようにしている。テレビはつけっぱなしにせず、時には昔懐かしい音楽や心地良い音楽を流している。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席以外に入居者同士がくつろいで過ごせるソファや畳の部屋があり、思い思いに過ごされている。又、居室以外にも一人でゆっくり過ごせるスペースもある。	0		
		85 外部 評価 33	○居心地よく過ごせる居室の配慮【外部評価】 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具などを家族に持ち込んでもらったり、家族の写真や自分の作品・家族や職員からのプレゼント・カードなどを本人に意思に合わせて飾ったりして、心地よく過ごせる環境作りをしている。	0		
		86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者本人に聞いたり触れたりし、その時に応じて衣類や気温を調節している。湿温計を置いており、冬場は加湿器を使用して快適に過ごせるように配慮している。においなどにも配慮し、トイレには消臭剤を置き悪臭が出ない工夫をして、換気や掃除をこまめに行うようにしている。	0		
		(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり(自己No.87~89)			自己評価3項目	2	
		87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行可能な方は出来る限り自力歩行して頂けるよう、危険な物は行いようにして安全な環境整備に努めている。入居者に応じて滑り止めマットやベッド柵などを使用し、安全面に配慮しながら自立した生活を支援している。過剰な介助にならないよう注意している。	1	それぞれの入居者に対して、日頃から点検・見直し・安全確保と自立への配慮をしている。	
		88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の居室の場所が分かりやすいよう、入口に表札や飾りなどで特徴を出している。トイレや浴室は表示をしている。手作りカレンダーや時計も見えやすい位置に設置している。日頃からどうしたら本人の力でやって頂けるかを意識してケアに取り組んでいる。	1	浴室に湯のマークののれんをさげ、より分かりやすくしたい。	
		89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭で洗濯物を一緒に干したり園芸をしたり、季節の花を見て楽しんだりテラスに座って日向ぼっこをしたりしている。又、気候の良い時は中庭で昼食やおやつを食べたりしている。建物の外周りは散歩や運動も兼ねてごみ拾いに行ったりしている。	0		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んで いきたい 項目	取り組んで いきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
V サービスの成果に関する項目				取 り 組 み の 成 果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該 当 番 号	
サービス の 成 果 に 関 す る 項 目	90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	2		
	91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	1		
	92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	3		
	95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1		
	96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	2		
	97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	2		
	98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	3		

大区分	中区分	番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組んでいき きたい項目	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
サービスの成果に関する項目		99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	2	
		100	○職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	1	
		101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	2	
		102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族と ②家族等の2/3くらいと ③家族等の1/3くらいと ④ほとんどできていない	2	
V サービスの成果に関する項目				取 り 組 み の 成 果 (該当番号を該当番号欄に入力すること)	該 当 番 号	

※ Vサービスの成果に関する項目の該当番号は、選択肢の該当番号を示します。

※ 番号の上位は自己評価の項目番号を指します。外部評価項目は、番号欄に網掛けをして外部評価と表示し、外部評価の項目番号を下に表記しています。

※ 項目の横の重点は、外部評価の調査結果で重点項目として概要表に記載される項目です。

また追加は、福岡県が国の参考例に自己評価から外部評価に加えたり、新たに自己評価も含めて独自に追加した項目などです。